

第2節 男女共同参画に関する市民意識調査

調査の目的と概要

○調査の目的

「花巻市男女共同参画基本計画」(平成28～35年度)の策定にあたり、男女共同参画に関する意識調査を実施しました。

○調査の概要 ※()内は、前回調査の内容。

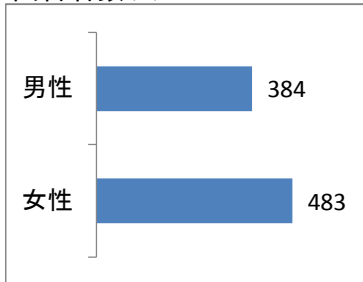
- ①調査対象 市内に居住する15歳以上の男女 (市内に居住する18歳～69歳の男女)
- ②標本数 2,100人 (1,700人)
- ③抽出方法 無作為年代別男女別抽出 (今回調査と同じ)
- ④抽出台帳 住民基本台帳 (今回調査と同じ)
- ⑤調査方法 郵送配布、郵送回収 (今回調査と同じ)
- ⑥調査期間 平成27年1月20日～3月31日 (平成15年8月7日～9月15日)
- ⑦有効回収数 874人 (543人)
- ⑧回収率 41.6% (31.9%)

1.調査回答者の属性

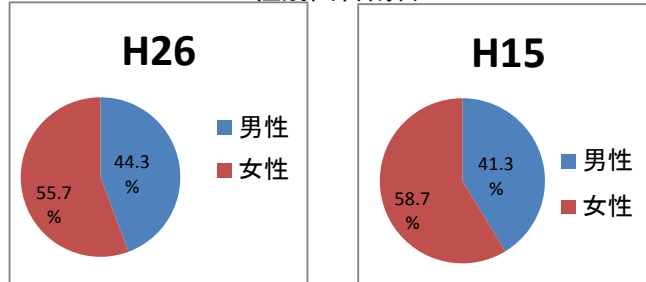
n・・・各設問における回答者数

【1-1】性別

回答者数:人 n=867

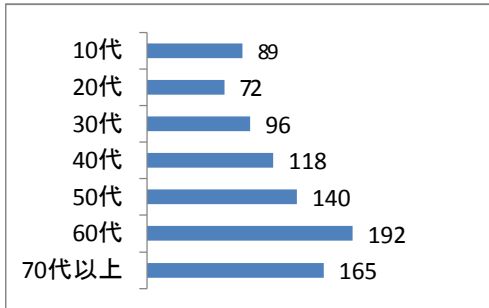


性別回答割合

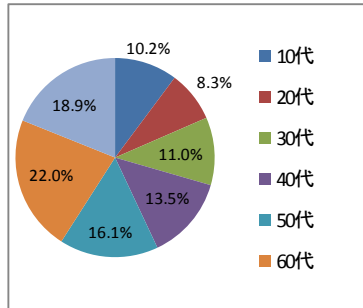


【1-2】年代

回答者数:人 n=872



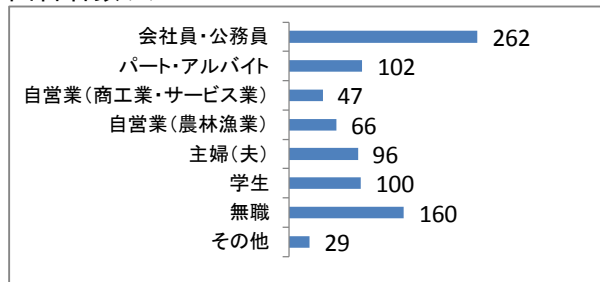
年代別回答割合



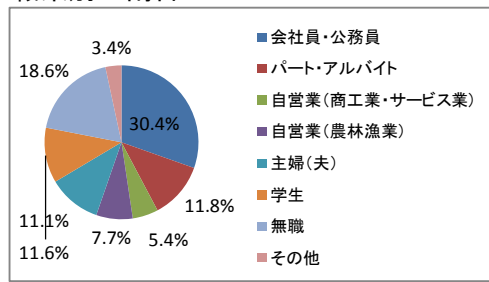
【1-3】職業

回答者数:人

n=862



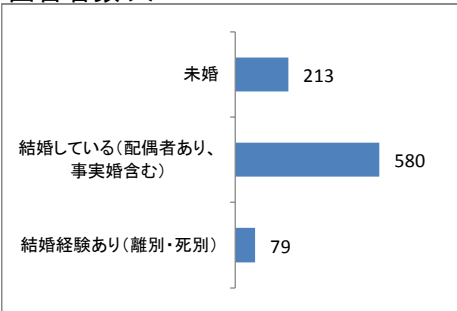
職業別の割合



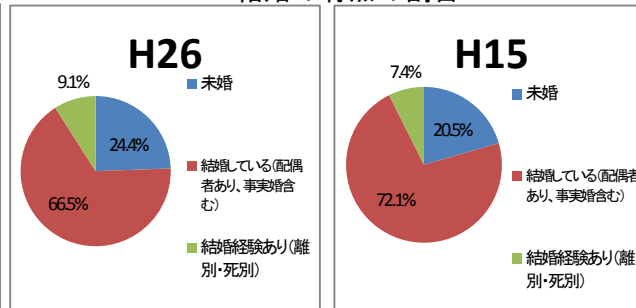
【1-4】結婚の有無

回答者数:人

n=872



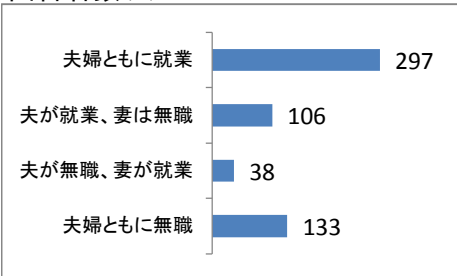
結婚の有無の割合



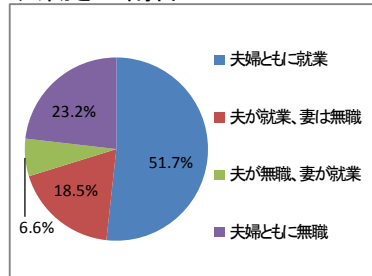
【1-5】共働きについて

回答者数:人

n=574



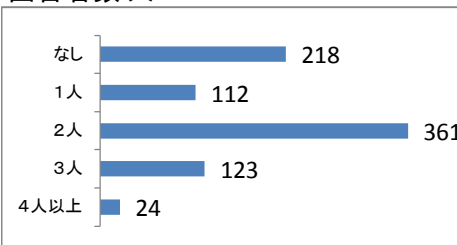
共働きの割合



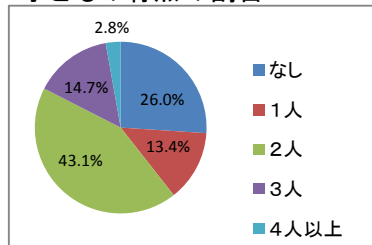
【1-6】子どもの有無

回答者数:人

n=838



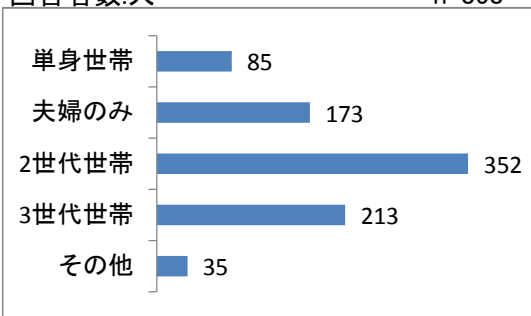
子どもの有無の割合



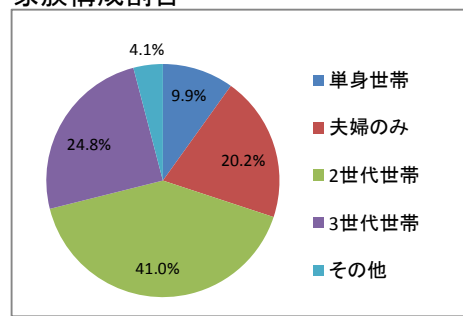
【1-7】家族構成

回答者数:人

n=858



家族構成割合

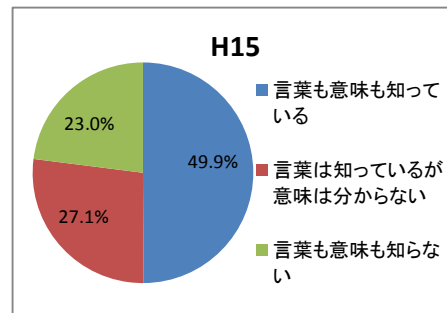
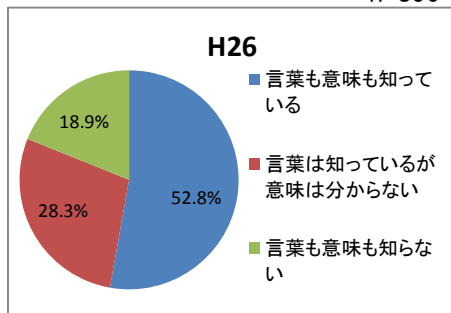


◇2世代世帯が最も多く41.0%、次いで3世代世帯が24.8%、夫婦のみ世帯が20.2%となっている。

2.男女共同参画社会について

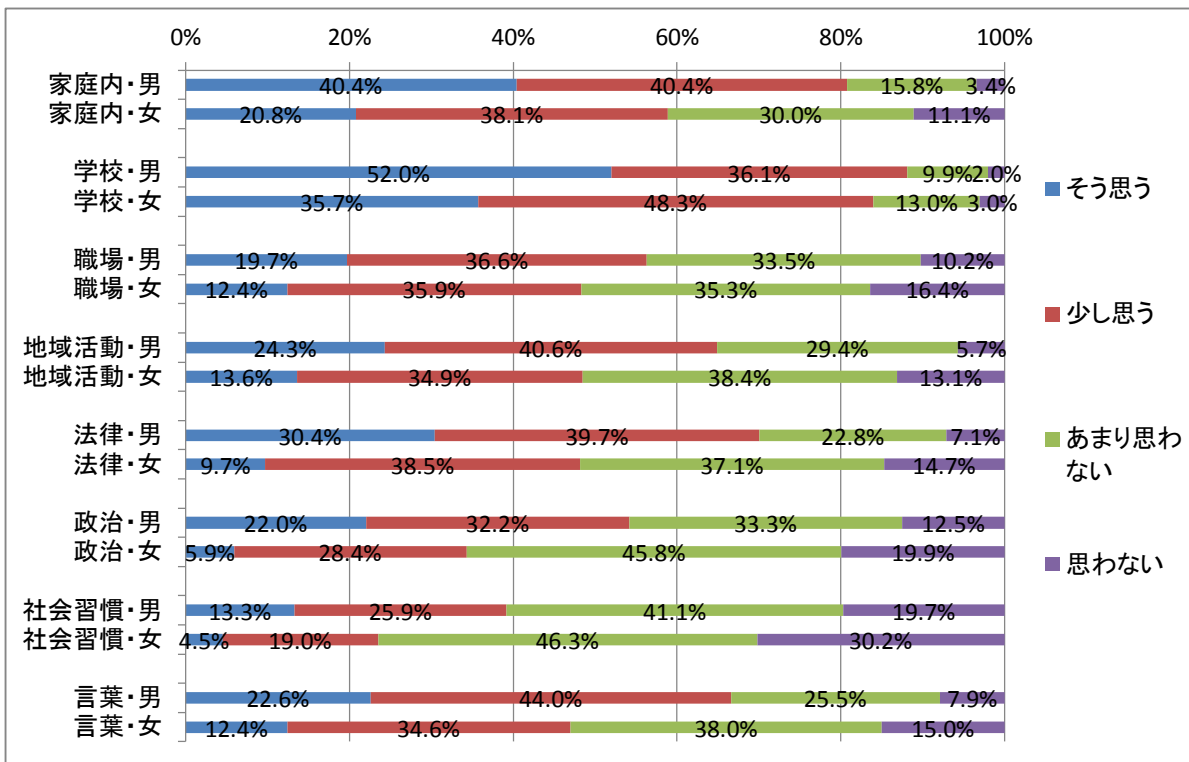
【男女共同参画社会という言葉を知っているか】

n=856



男女共同参画社会という用語の意味を知っている人は平成15年より増えているものの、いまだ半数近くの人が「意味が分からない」と答えています。

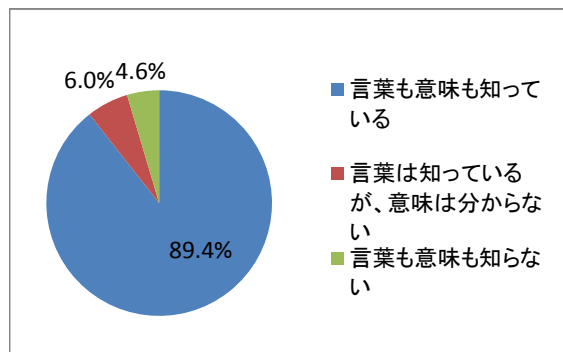
【男性と女性の地位が平等になっていると思うか】



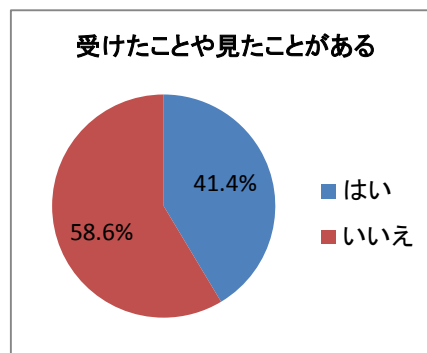
男性と女性とを比べた場合、すべての項目において「そう思う」「少し思う」を合わせた割合は、女性が男性より低く、また男女間での意識に差がみられます。

3.男女間の暴力について

【DV(ドメスティック・バイオレンス)という言葉を知っているか】



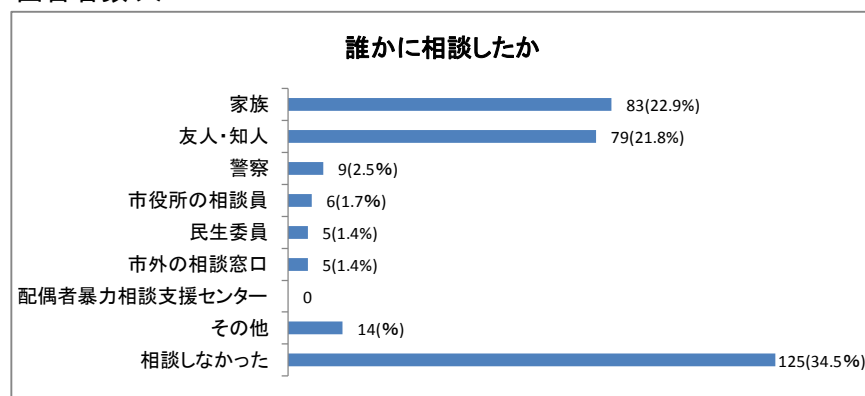
【DVを受けたことや見たことがあるか】



【DVを受けたことや見たことがある場合、誰かに相談したか】(すべて選択)

回答者数:人

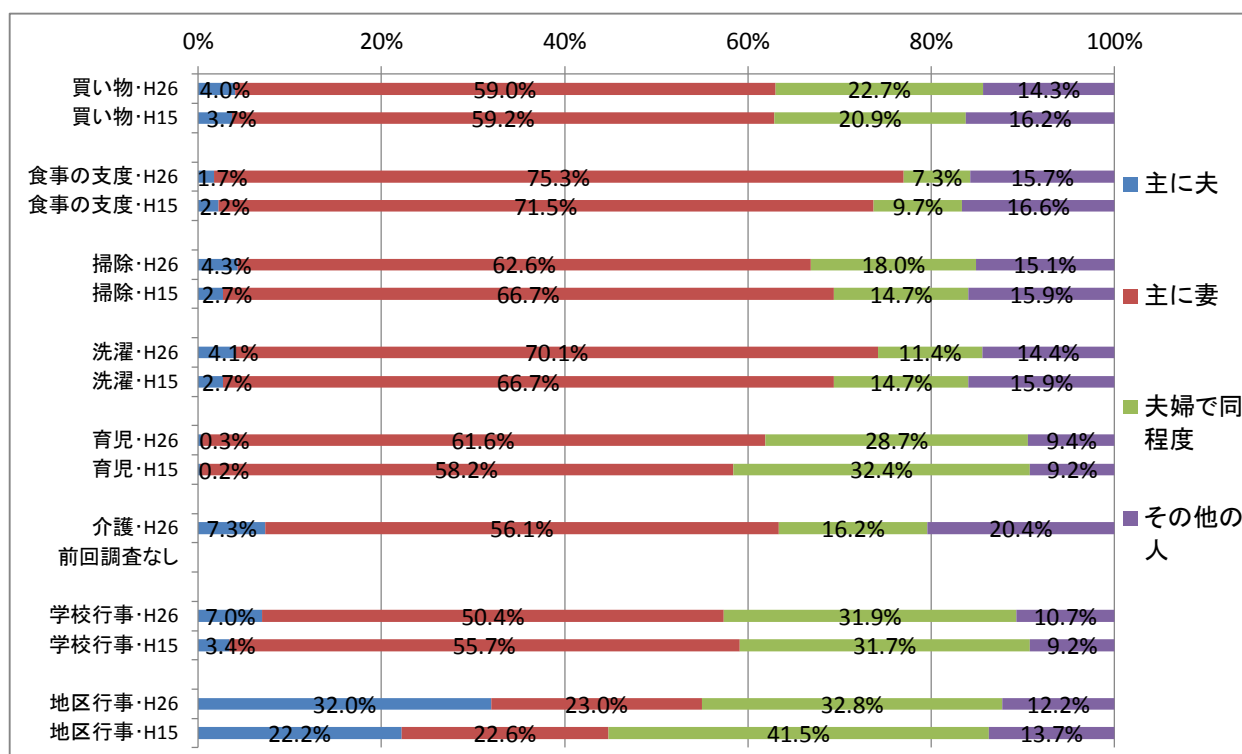
n=362



DV(ドメスティック・バイオレンス)という言葉の認知度は、約9割近くと高くなっています。また、「DVを受けたことや見たことがある」と答えた人は41.4%に上っており、そのうち相談しなかった人が34.5%と、相談しない人が多いという結果になっています。

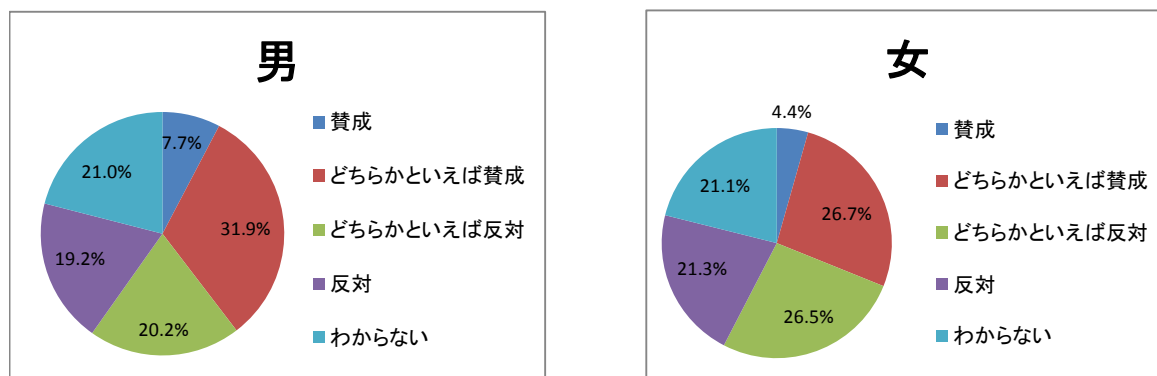
4.家庭生活について

【家事などを主に誰が行っているか】



買い物や食事の支度など家事全般については、平成15年と大きく変わっていないため、依然として家庭での妻の負担が大きいことが伺えます。

【夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について】

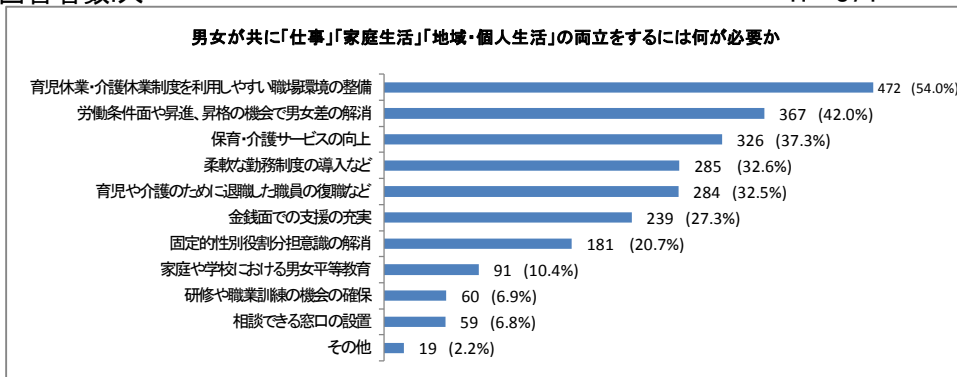


「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、男性が39.6%、女性が31.1%であり、男性の割合の方が高くなっています。女性より男性の方が、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別による固定的な役割分担意識が強くあることが伺えます。

【男女が共に「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」を両立するには何が必要か】(3つ以内選択)

回答者数:人

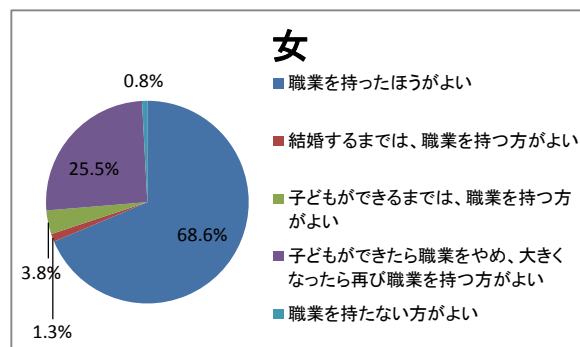
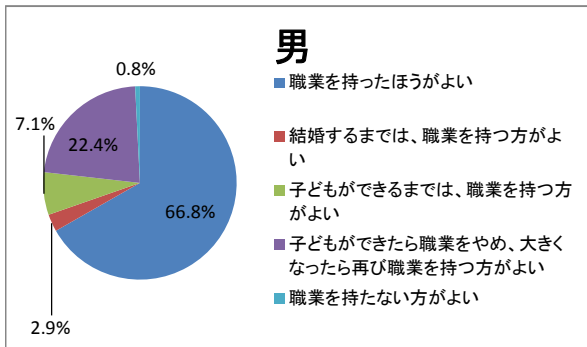
n=874



「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」が54.0%と最も高く、次に「労働条件面や昇進、昇格の機会での男女差の解消」が42.0%、「保育・介護サービスの向上」が37.3%となっています。育児・介護サービスの向上とともに育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備が求められています。

5.女性と職業について

【女性が職業を持つことについて】

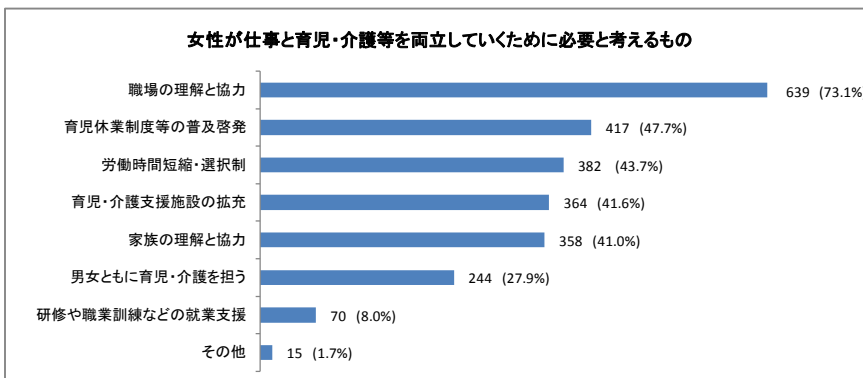


女性が職業を持つことについて、男女間に意識の差はあまりみられません。

【女性が仕事と育児・介護等を両立していくために必要と考えるもの】(3つ以内選択)

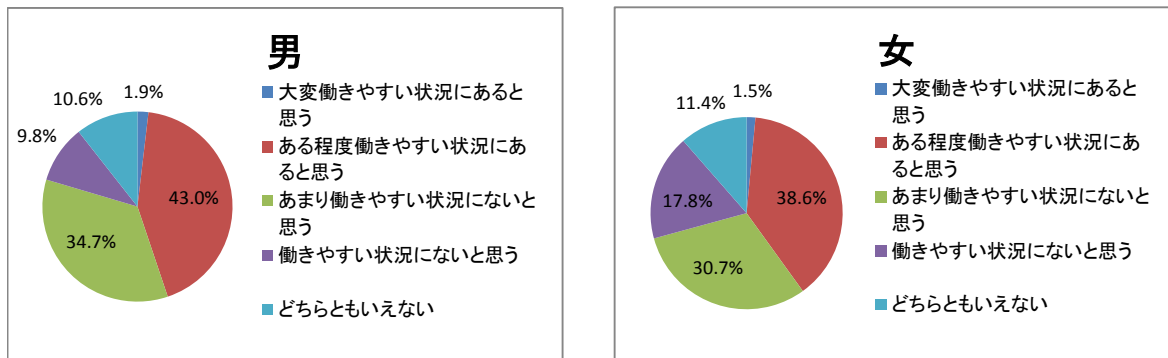
回答者数:人

n=874



「職場の理解と協力」が最も高く、続いて「育児休業制度等の普及啓発」、「労働時間短縮・選択制」「育児・介護支援施設の拡充」という順になっています。仕事と育児・介護等を両立していくためには、職場の理解と協力や労働環境の改善が必要です。

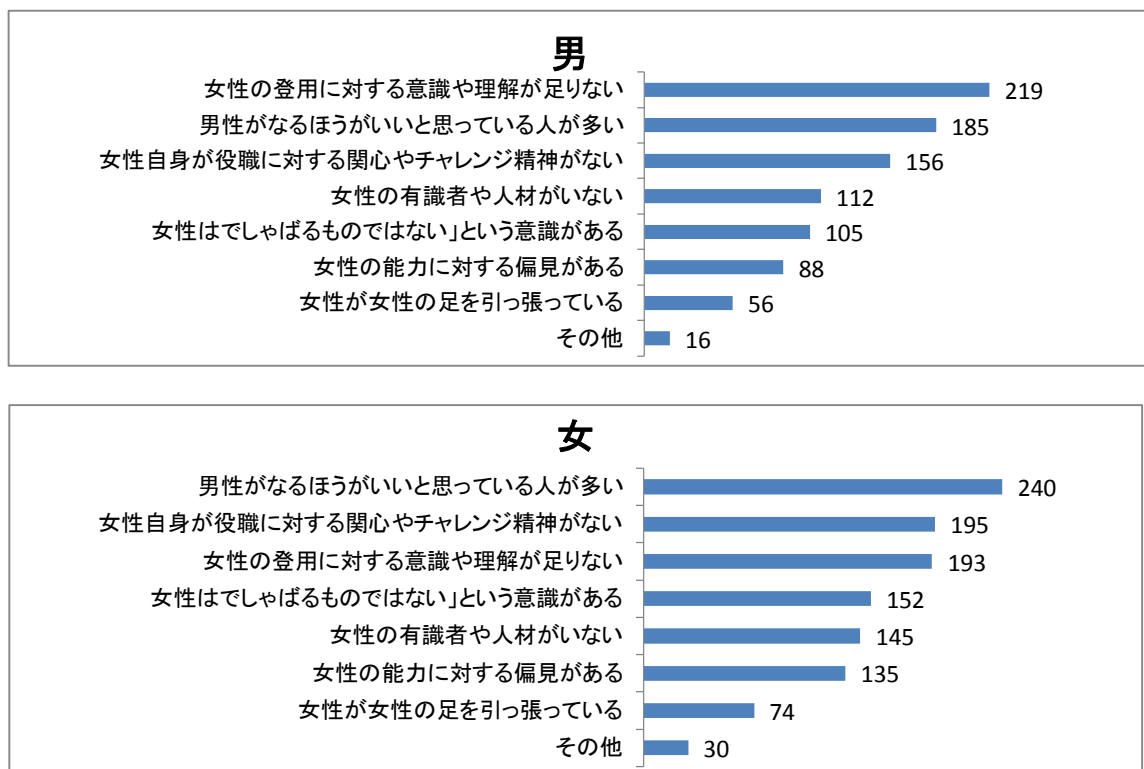
【現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思うか】



「大変働きやすい状況にあると思う」、「ある程度働きやすい状況にあると思う」を合わせた割合は、男性が77.7%、女性が69.3%となっています。また「働きやすい状況にないと思う」の割合は、男性が9.8%、女性が17.8%となっており、男女間で意識の差がみられます。

6.社会の方針決定等への参画について

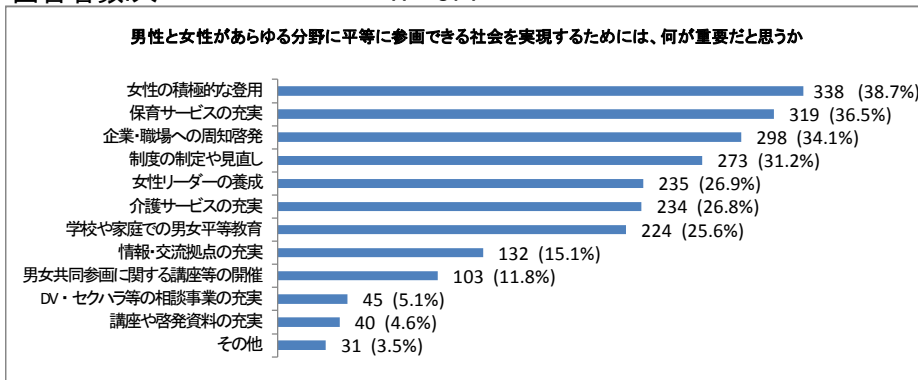
【自治会、PTAなどの役職、議員や委員会等委員への女性の進出が進まない原因】(3つ以内選択)



社会の方針決定等への女性の参画が進まない原因として「男性がなるほうが良いと思っている人が多い」、「女性の登用に対する意識や理解が足りない」、「女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない」が男女共から挙げられました。

【男性と女性が家庭、職場、地域、政治の場などあらゆる分野に平等に参画するために重要なこと】
(3つ以内選択)

回答者数:人 n=874

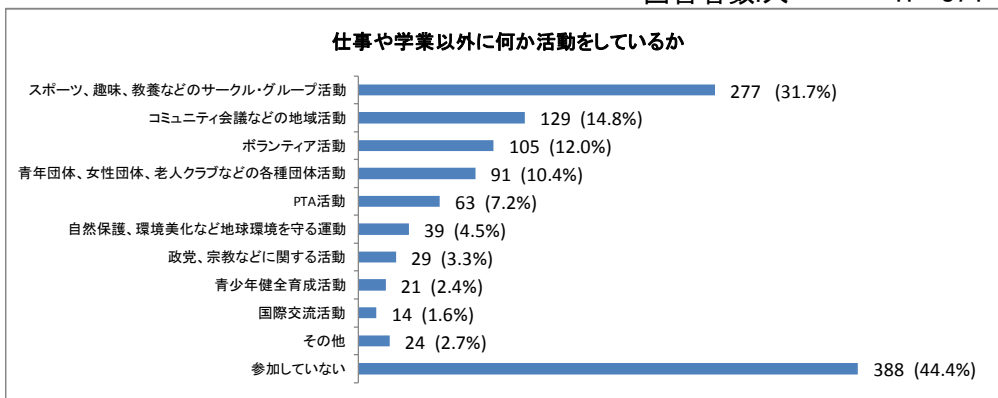


「女性の積極的な登用」、「保育サービスの充実」、「企業・職場への周知啓発」を求める声が多くなっています。

7.社会活動への参加について

【仕事や学業以外に何か活動をしているか】(すべて選択)

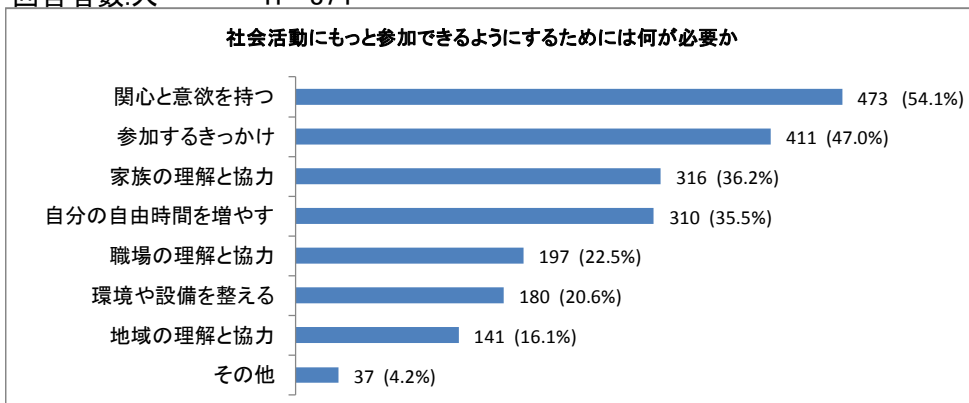
回答者数:人 n=874



「参加していない」が最も多く、次に「スポーツ、趣味、教養などのサークル・グループ活動」、「コミュニティ会議などの地域活動」と続いており、約半数が仕事や学業以外に活動していません。

【社会活動にもっと参加できるようにするためには何が必要か】(3つ以内選択)

回答者数:人 n=874



社会活動をしやすくするためには「関心と意欲を持つ」が最も多く、次いで、「参加するきっかけ」、「家族の理解と協力」となっています。